

目の練習の如きも、物を覺へさせようとする爲めに、いろいろの物を子供の眼前に持つて來て、覺へさせようとする事も慎まなければなりません。たゞ子供が散歩等に行く時に、自ら見て覺えたと云ふように、子供の自發的練習に任せて置くべきで

綿細工の製作法

綿細工も彼の麥稈細工と同様に、幼稚園室内を裝飾するために保姆の方々の製作するの手工であります。左に之に要する材料と用具とに付いて概略を述べます。

甲、材料

(イ) 細工綿。普通の小袖綿を一夜寝押をかくれば使へますが、大坂には細工綿として特別にこしら

あります。尙、學校に於いて特に注意すべきは、子供が近眼にならないようにすることであり、かういふ點に就いては、前に十分なる研究が施されて居ること、思ひますから、茲では更めて申上げない考へであります。(第一章總論終)

東京女子高等師範學校訓導

藤

五代策

へたものかあります。使用の目的によりて廣く切ることもあり又長く切ることもあります。常に兩方の手にて引き分けて切れ目の角立たぬのが宜敷いのであります。

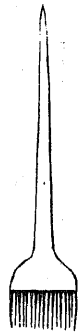
(ロ) 骨格となる針金。二十番の亞鉛引針金に、薄美濃紙を細長く切りて堅く巻き付けます。さすれば針金が自由に曲りて鏝の生ずることがありま

せん。

(ハ)フノリ。フノリ一枚(五六寸角)に約水一升を入れて、よく煮解き布にて濾過します、綿にて作り上げたる後此のフノリを刷毛にて貼り纏むるのであります。

(二)泥繪具。フノリにて纏めよく乾きたらば、該物の具有せる色を着くるのであります、泥繪具の代りに普通の水繪具を用ひても差支はありません。

(ホ)其他膠、古端書等を要することもありませぬ。



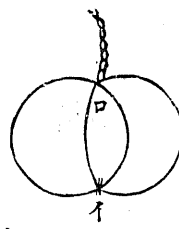
(イ)細工刷毛。幅七分柄の長七八寸の小刷毛の柄の上部が錐の如く尖らせたるもので、錐状の部にては種々の細工を施すのであります。

(ロ)喰切と鋏。喰切は針金を切り鋏は紙などを切るに用ひます。

丙、製作法

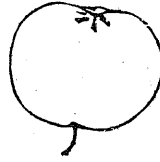
此の綿細工で製作せらるゝものは、果實、野菜類、鳥類、獸類などが最適切であつて、彼の花類や魚類、昆蟲類などには餘り相應しません、次に簡易なものより二三種類製作法を説明しませう。

一、林檎の作り方



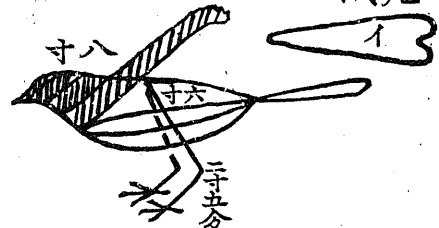
針金にて上圖の如き骨格を作り、柄の部は拗ち合せ、(イ)と(ロ)の處は糸にて結びつけます、次に半紙にて林檎を包みます、次に半紙にて包み、骨格の上より糊にて貼付けます、是より綿を、骨格の如き形に切りて、林檎の胴の凹める間に貼りて圓き形に仕上げます、最後に林檎を包被するだけ綿二枚を作り、林檎の下部よりすけ柄の方々に包み柄にも少し綿を巻けば大體の形が出来上

ります、是より刷毛にてフノリを一様に引き表
面にスガメの無き様に注意します、先端の臍の
處は刷毛の柄の尖れる處にて綿を少し突き出せ
ば臍の如くなり、斯くしてよ
く日に乾かしたらば、初めに淡黄
色の繪具にて一面を塗り、次に赤
色にて林檎の實物の色の如く彩色
します。



(注意)柄は四五寸位長く残して、細工を施せ
ば頗る便利であります、又日に乾かす際には柄
を他物に刺しておくのです、愈々林檎の出来上り
たる後に柄は適當の處から切り去ります。
林檎の製作法が判りますれば、其他の果物類や
慈姑、胡瓜、茸等をも自由に作る事が出来ま
す。
二、カナリヤの作り方
長八寸の針金にて頭、脊、腹の部を作り、六寸のも

紙尾



て(イ)の如き尾紙を作りて貼り付ければ、カナ
リヤの大體の骨格が出来上ります。
是より脚の股の部に少しく綿を巻き、頭の部に
綿丸を挿み、細長く切りたる綿にて、圖の如く
嘴の先より頭、胸、胴と順次に綱帯を掛くる
様に巻き付けます、次に咽下より八分角位の薄
綿を當てフノリにて撫でつけ、更に頭部よりも

のにて腹の側部及尾を作
り、二寸五分の針金にて
二本の脚を作ります、脚
の趾は稍細き針金にて前
趾三本後趾一本として纏
めます、凡て動物は骨格
に一定の割合があります
から、次の割合を失はぬ
様に作る事が肝要で
あります、次に古端書に

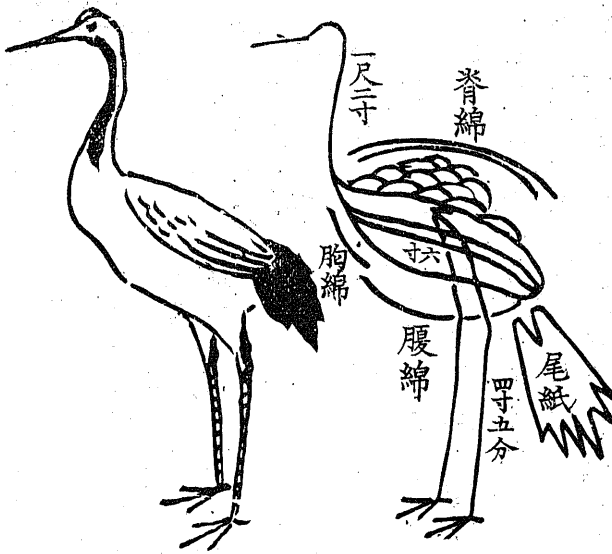
一寸角位の薄綿を當て糊付を施します、腹部には長方形の薄綿の脚の部を少し裂きて被ひ十分にフノリを布き、次に脊にも二三枚の綿を置き其上より稍卵形の廣き綿二枚を被ひてフノリにてよく撫で付ければ、全くカナリが完成します。

嘴及び趾の如き角質部には、押糊を塗り付け更に假漆を塗れば光を發します、次に頭と脊の

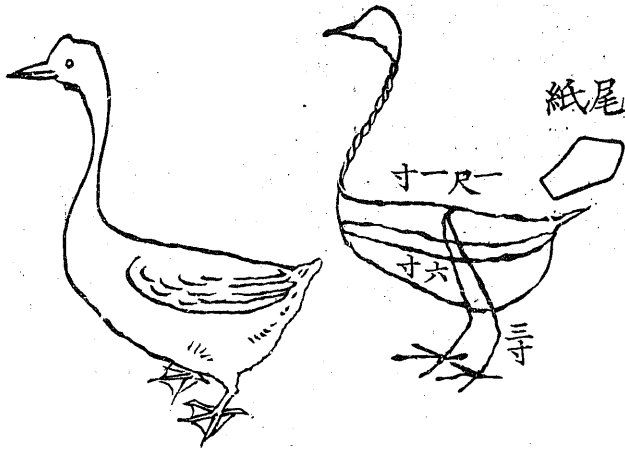


部を淡黄色に塗り、其乾けるを待ちて、濃く解ける胡粉にて

兩方の翼を描きます、眼は極めて濃き胡粉をダツブリ載せおけば、乾くに從ひて半球狀に固まりますから、其上に黒點を描きて眼の丸を入れます、尙嘴や趾は假漆を塗る前に淡赤色に塗



るのであります。



カナリヤを作ることに習熟せば、其の他の鳥類は何でも作ることが出来ます、左に鶴と鶯鳥との製作順序圖を掲げておきますから、作つてご覧なさい。

鶴の脊はタツブリふうむ様に十五枚の小綿を重ね其上より卵形の脊綿二枚を被せませす、翼は墨で描き、尾羽は全く黒く塗ります、尙各部分の彩色は、よく實物を觀察して施すべきものであります。

鶯鳥の蹠は薄綿を張りて淡赤色に染むるのです此の綿細工は前に述べた如く、骨格の研究、外形上の形態及び彩色に至るまで綿密なる觀察によつて製作すべきものでありますから、是亦教育上多大の價値を有するものであります。